



AeroEdge

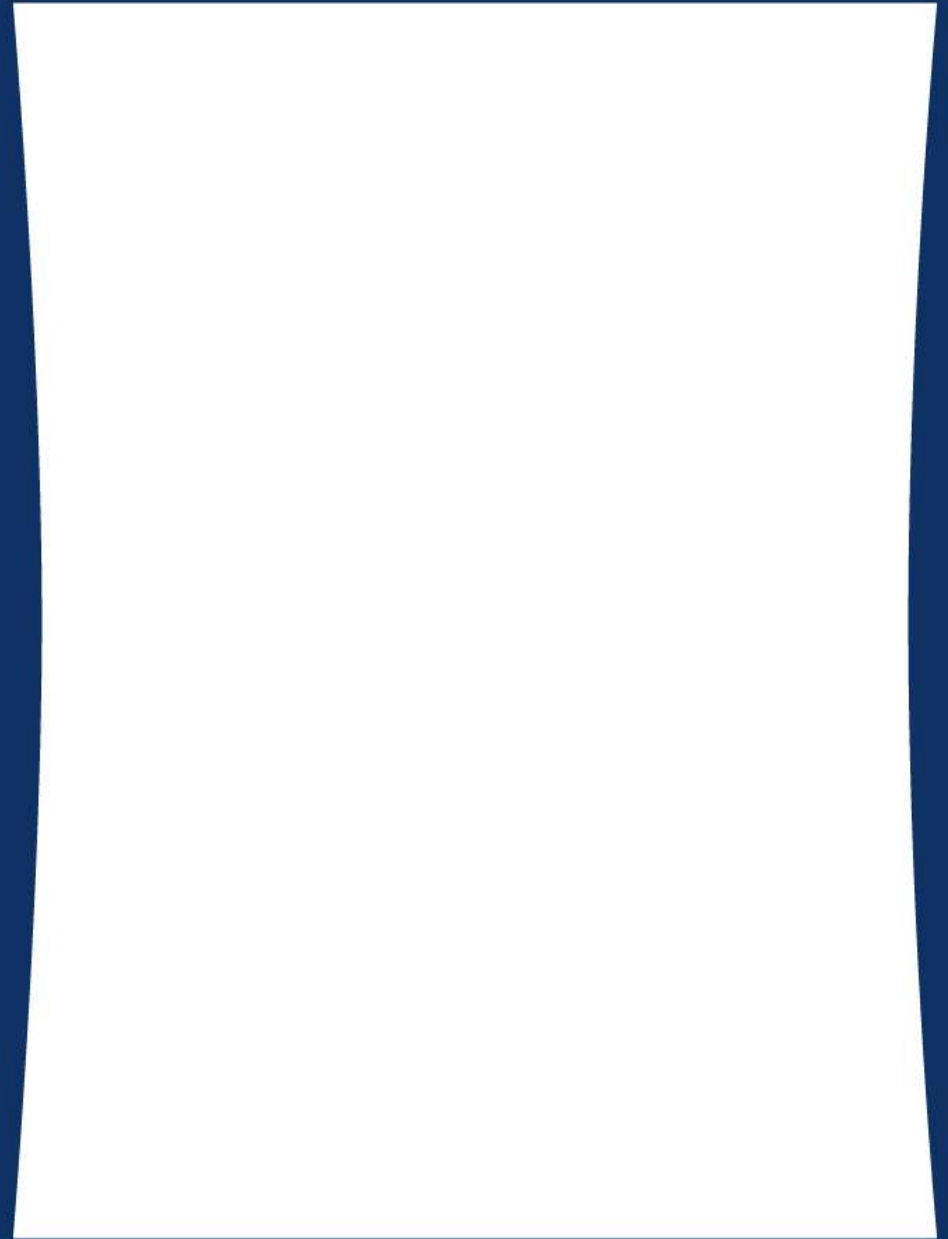
AeroEdge 株式会社

2026年5月26日

全国工業高等学校校長協会

第1部

※講演資料より抜粋





AeroEdge

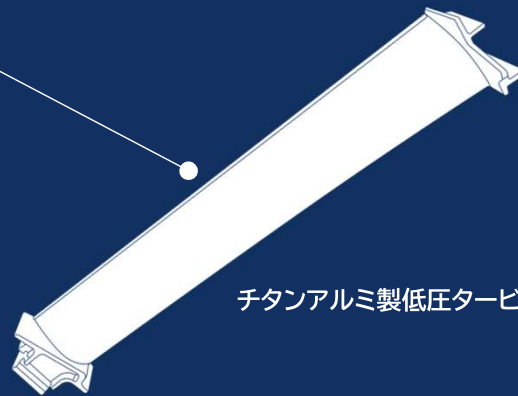
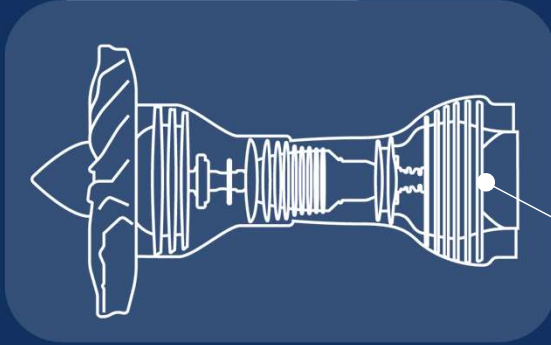
Aerospace x Leading Edge

創造性と技術力で感動をもたらす
ソリューションカンパニーへ

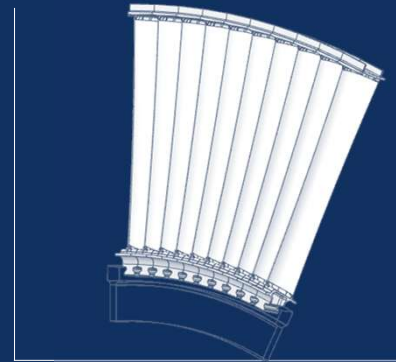
事業内容

仏Airbus社及び米Boeing社が製造する航空機に採用されている、LEAPエンジンの部品であるチタンアルミブレードを量産販売。
当該技術をベースにその他の部品の加工販売、研究開発を推進

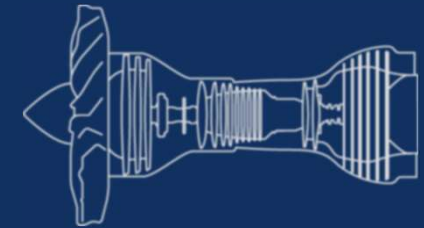
航空機エンジン部品(チタンアルミブレード)の加工販売



チタンアルミ製低圧タービンブレード



その他の部品の加工販売



その他のエンジン部品

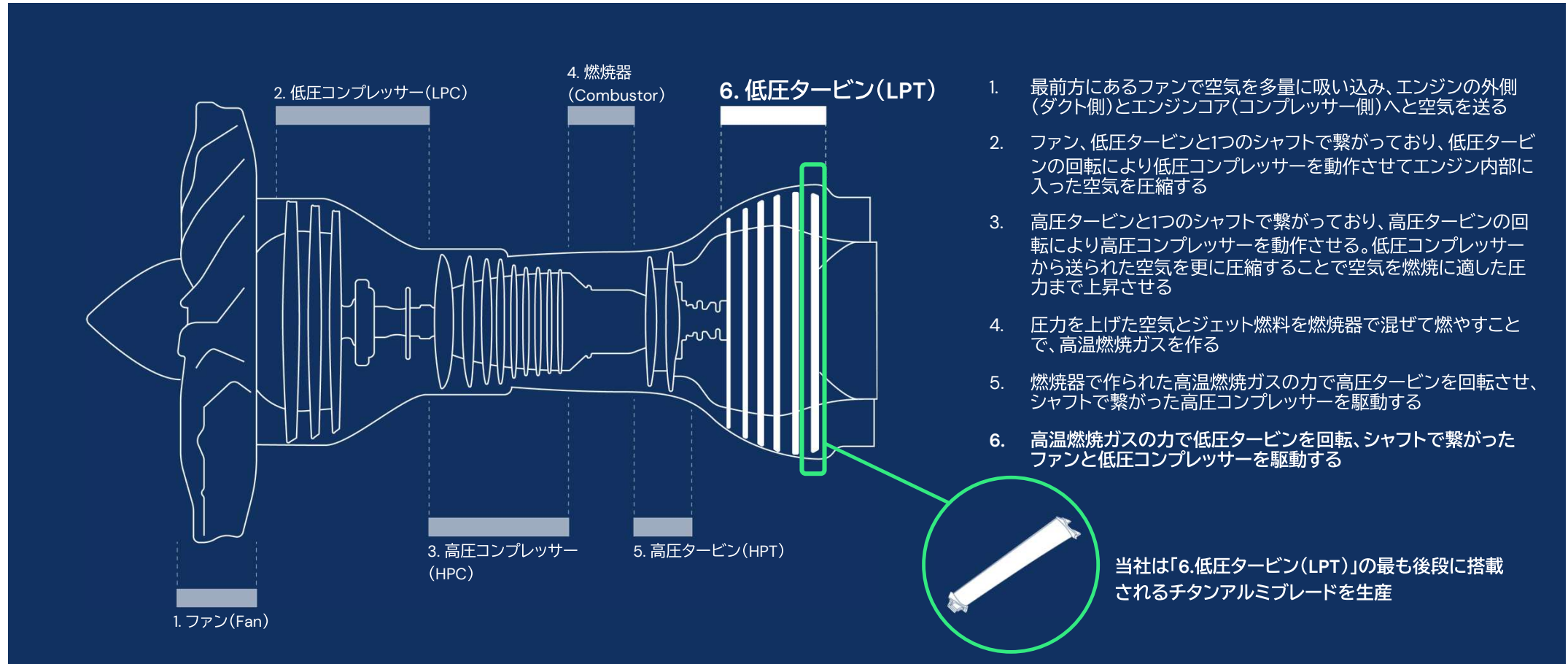


eVTOL(空飛ぶクルマ)の部品

LEAPエンジンのチタンアルミ製低圧タービンブレードを量産

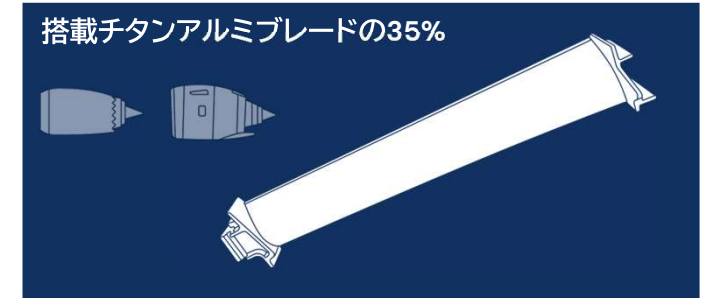
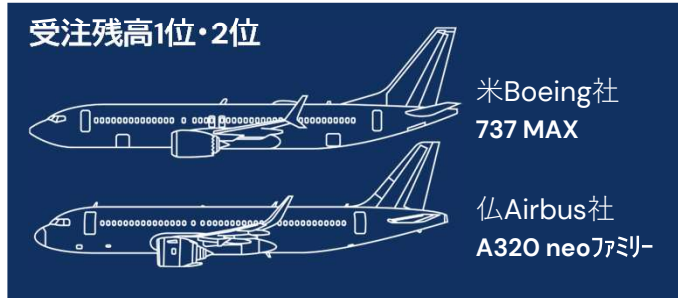
当社が製造するチタンアルミブレードは、低圧タービンを構成。

低圧タービンは、その回転により、推進力を生み出すファンを回転させる重要な構成部品

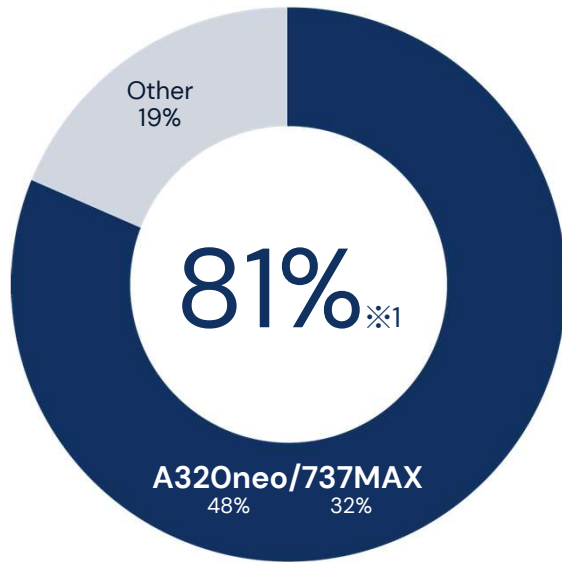


当社製造部品のグローバルシェア

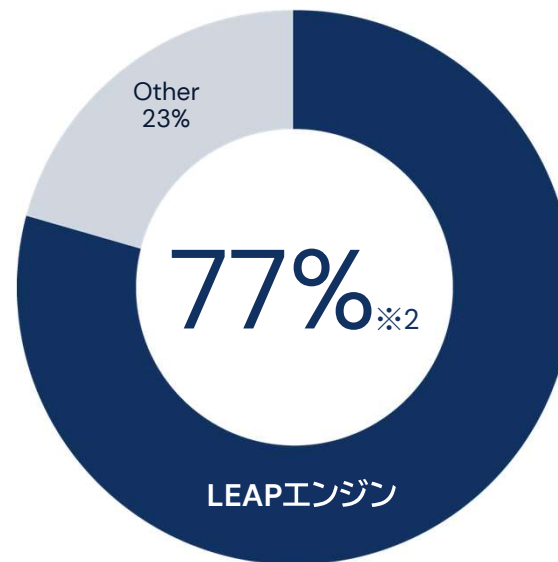
グローバル受注残高1位、2位の航空機に搭載されるLEAPエンジンに採用されている、先端素材チタンアルミブレードの40%を2034年までの契約にて供給



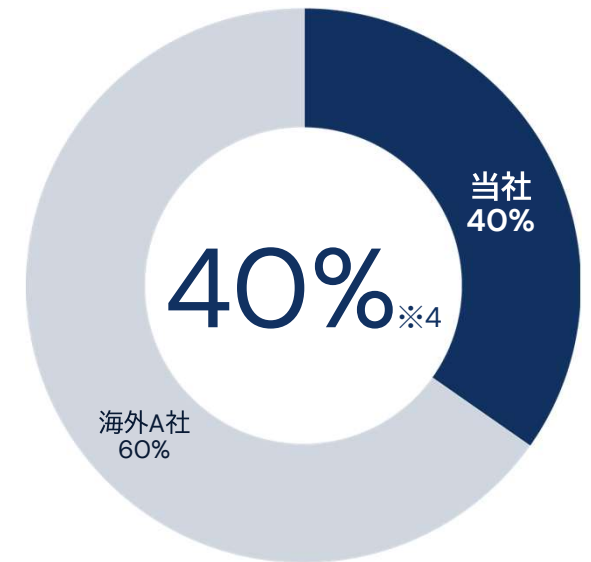
仏Airbus社/米Boeing社の全受注残高におけるA320neoファミリー/737MAXシェア



A320neoファミリー及び737MAXに搭載されるLEAPエンジンシェア



LEAPエンジン搭載チタンアルミブレードの当社シェア



※1 出典：一般財団法人日本航空機開発協会(2024年5月末時点)

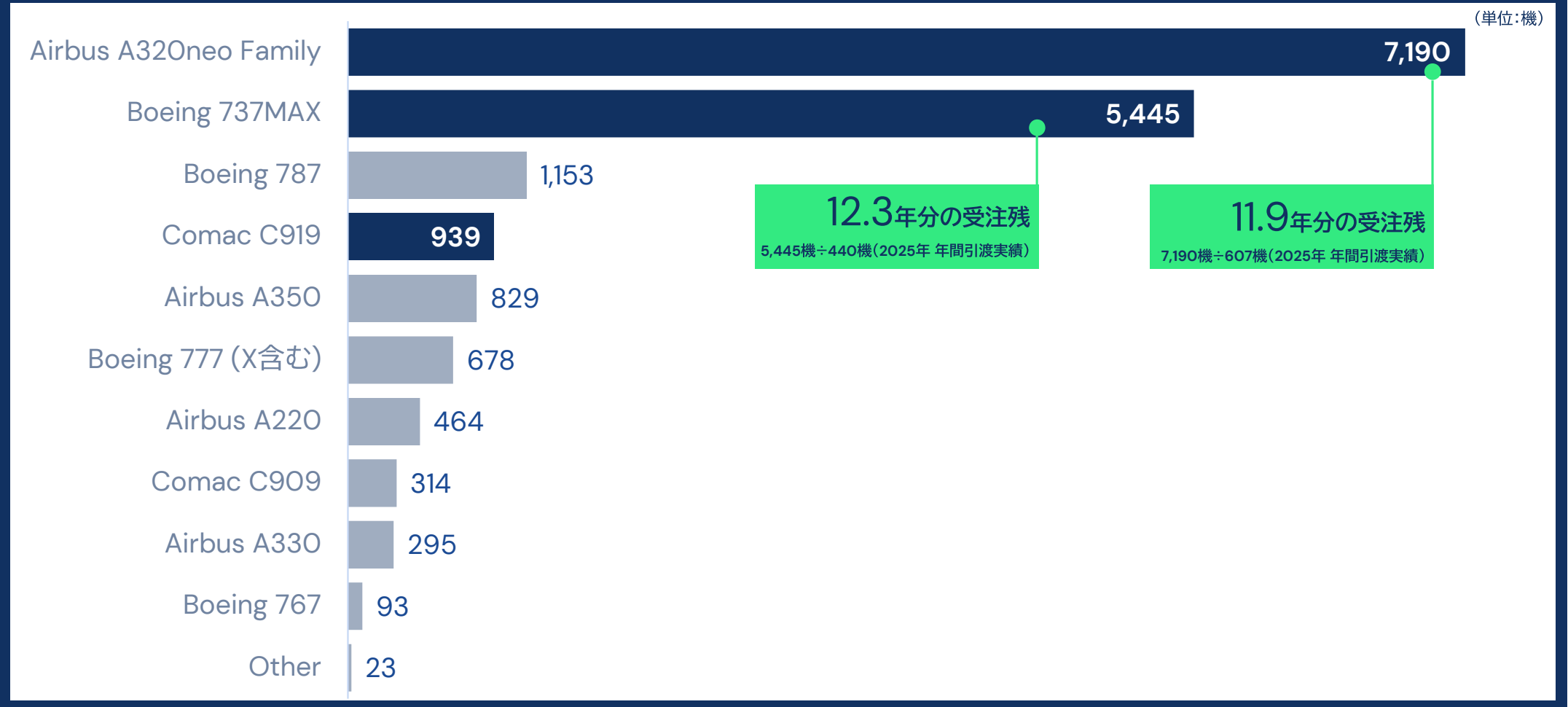
※2 $\frac{737MAX:4,623機 \times シェア100\% + A320neo:6,427機 \times シェア61\%}{737MAX及びA320neoの受注残高機数 11,050機}$ ※3

※4 契約更新により28年1月より40%台後半に拡大予定

航空機の市場動向(受注残機数)

LEAPエンジンが採用されるA320neoファミリー、737MAXは高い需要の下、10年を超える高水準の受注残機数を継続
C919も受注を拡大しており、中長期的な成長を見込む

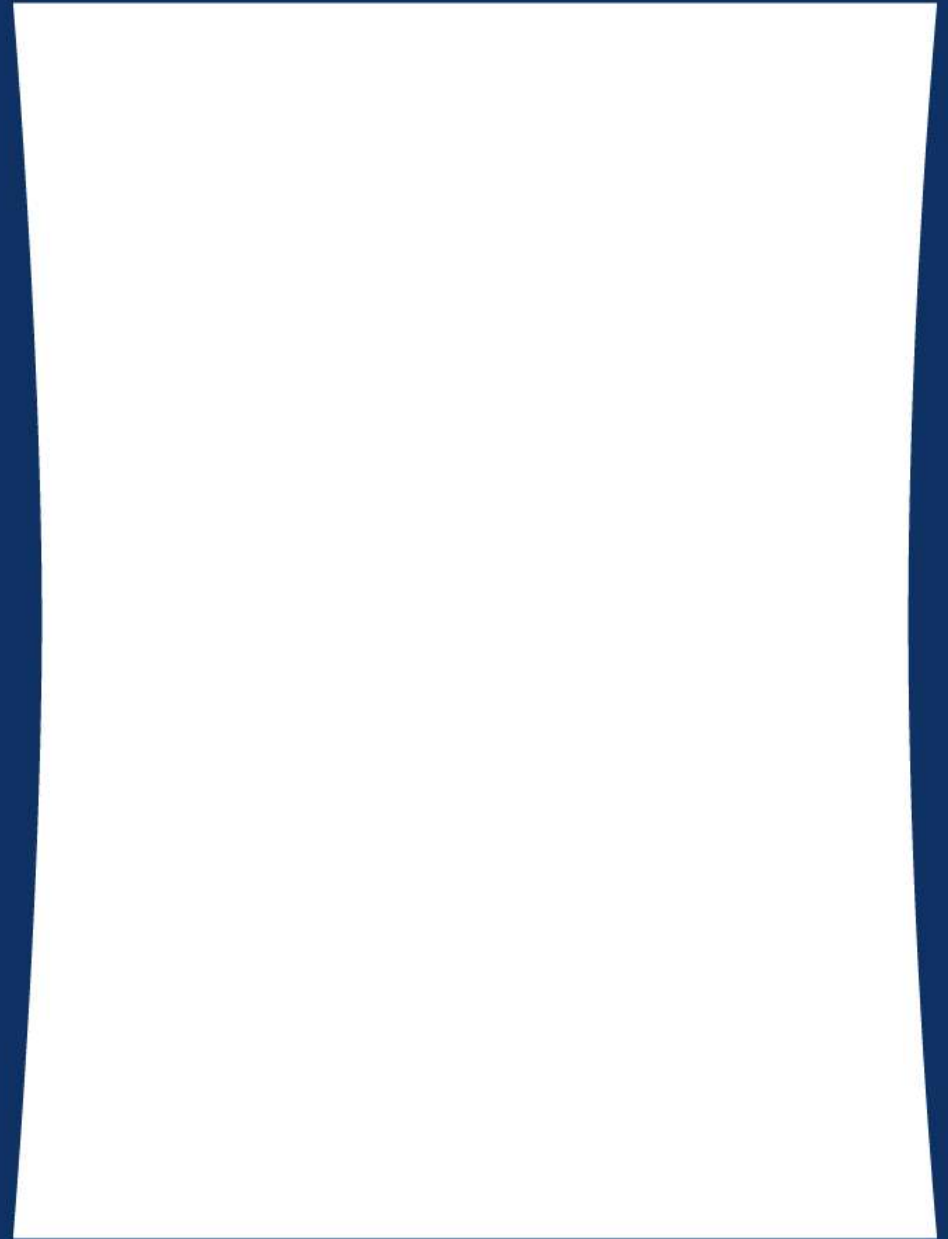
航空機種別受注残機数(2026年1月末時点)



出典:一般財団法人日本航空機開発協会情報を基に当社作成

LEAP事業の立ち上げ (2015-2022年)

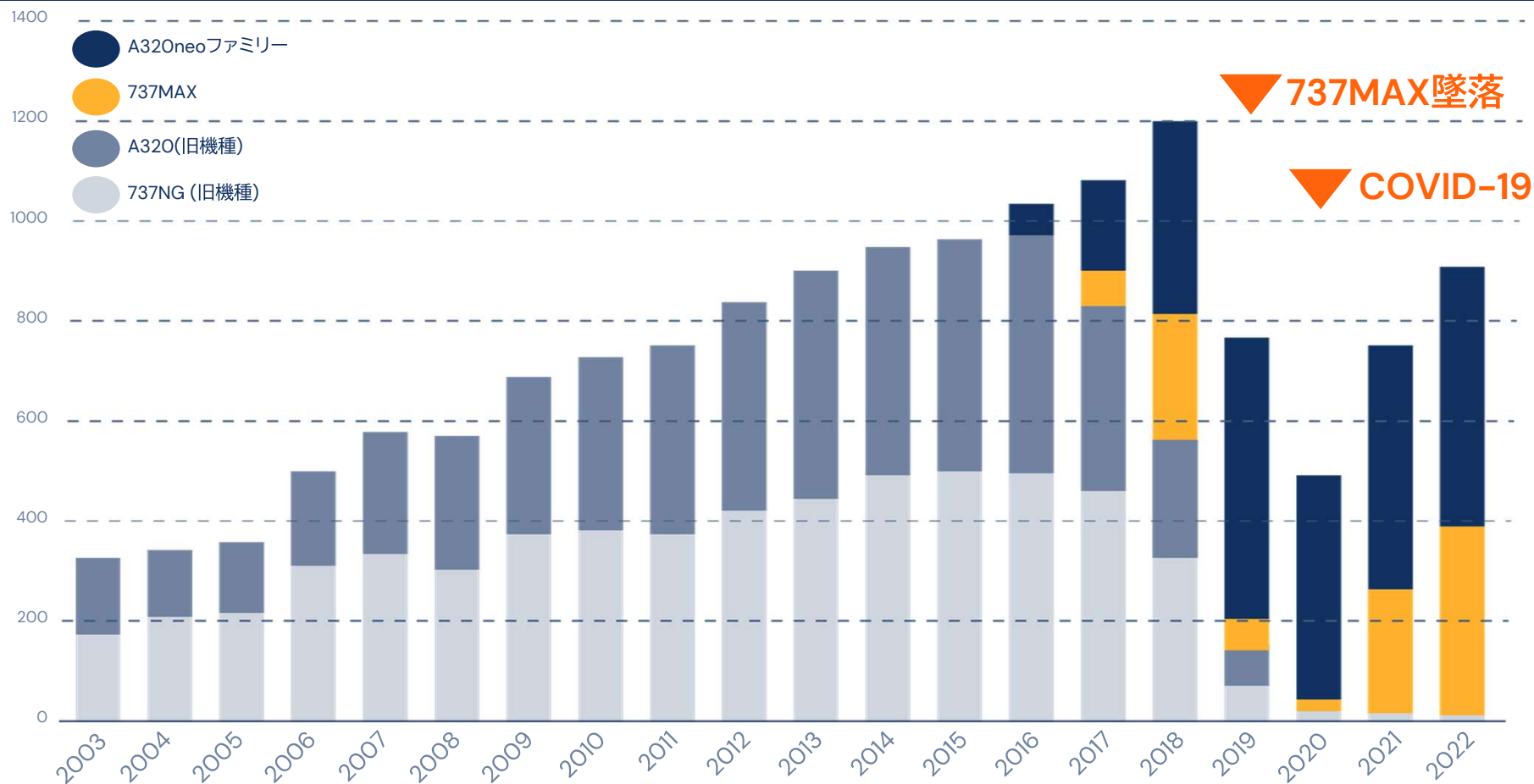
※講演資料より抜粋



COVID-19の影響

量産立ち上げ完了後、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、航空需要が大幅に落ち込み、機体生産量も大きく減少する経営危機に当社も直面

A320シリーズ / 737の年間引渡数推移



出典：一般財団法人日本航空機開発協会及び仏Airbus社、米Boeing社の公開情報を基に当社作成

Supplier Performance Award受賞

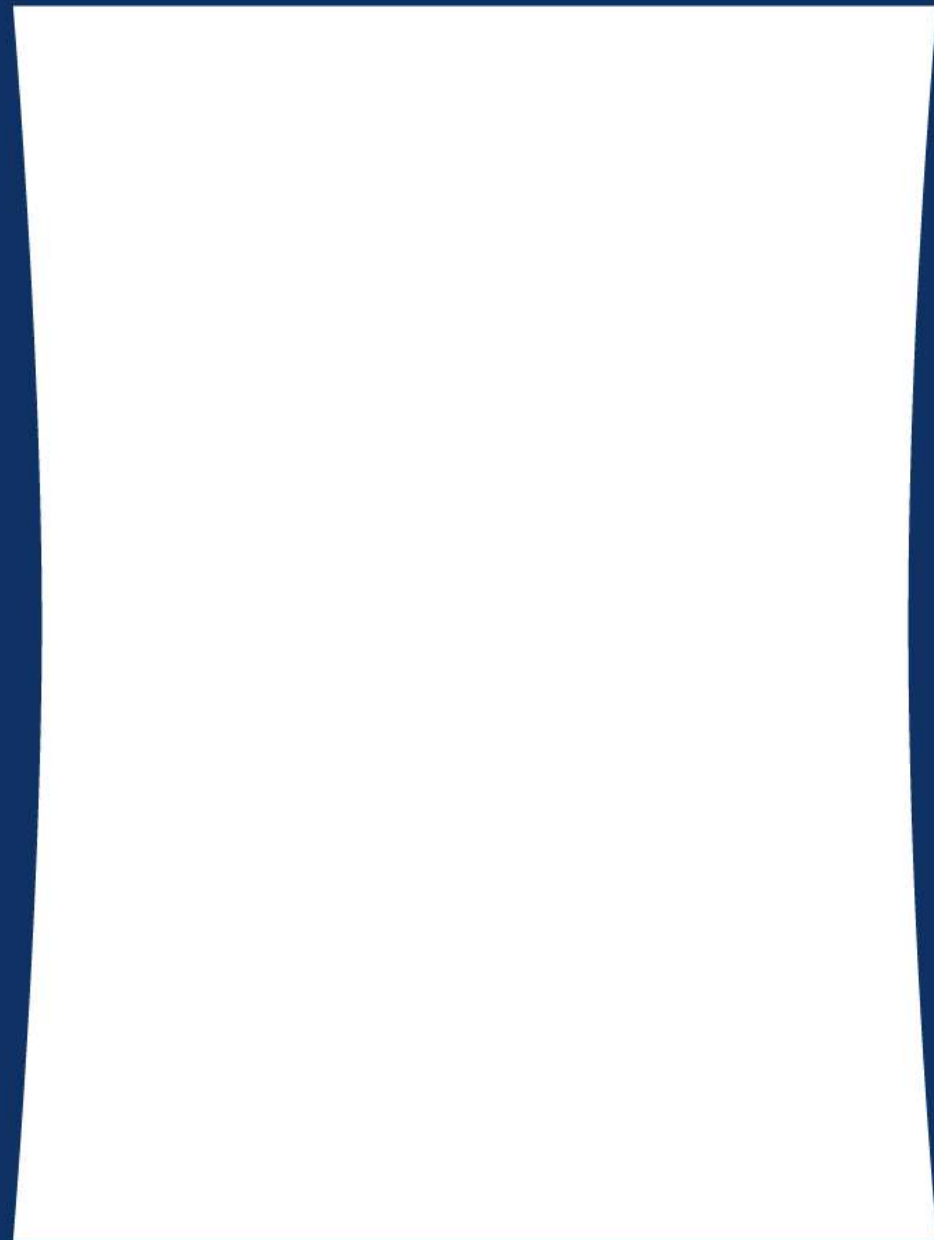
2022年、プログラム開始からわずか7年でサフランのSupplier performance Awardを受賞。同社の数千社のサプライヤーの中から、特に高いQCDを達成した企業5社のみにも与えられる。

授賞式 @ COCO FARM&WINERY (2022年)



上場および今後の成長戦略 (2023年～)

※講演資料より抜粋



東京証券取引所 上場

創業以来、成長戦略上の重要なマイルストーンとして設定し目指していた東京証券取引所 グロース市場への上場を実現

グロース市場への上場(2023年)

足利のエアロエッジが東証グロースに上場 市内の本社企業で2社目

足利の企業



東証グロースに上場した「エアロエッジ」

出典: 足利経済新聞

上場の目的

1. 成長資金の獲得

- 成長のための設備投資
- R&D投資

2. 国内外の優秀な人財獲得

- 上場による知名度向上
- 高卒人財、生産人財、エンジニア人財

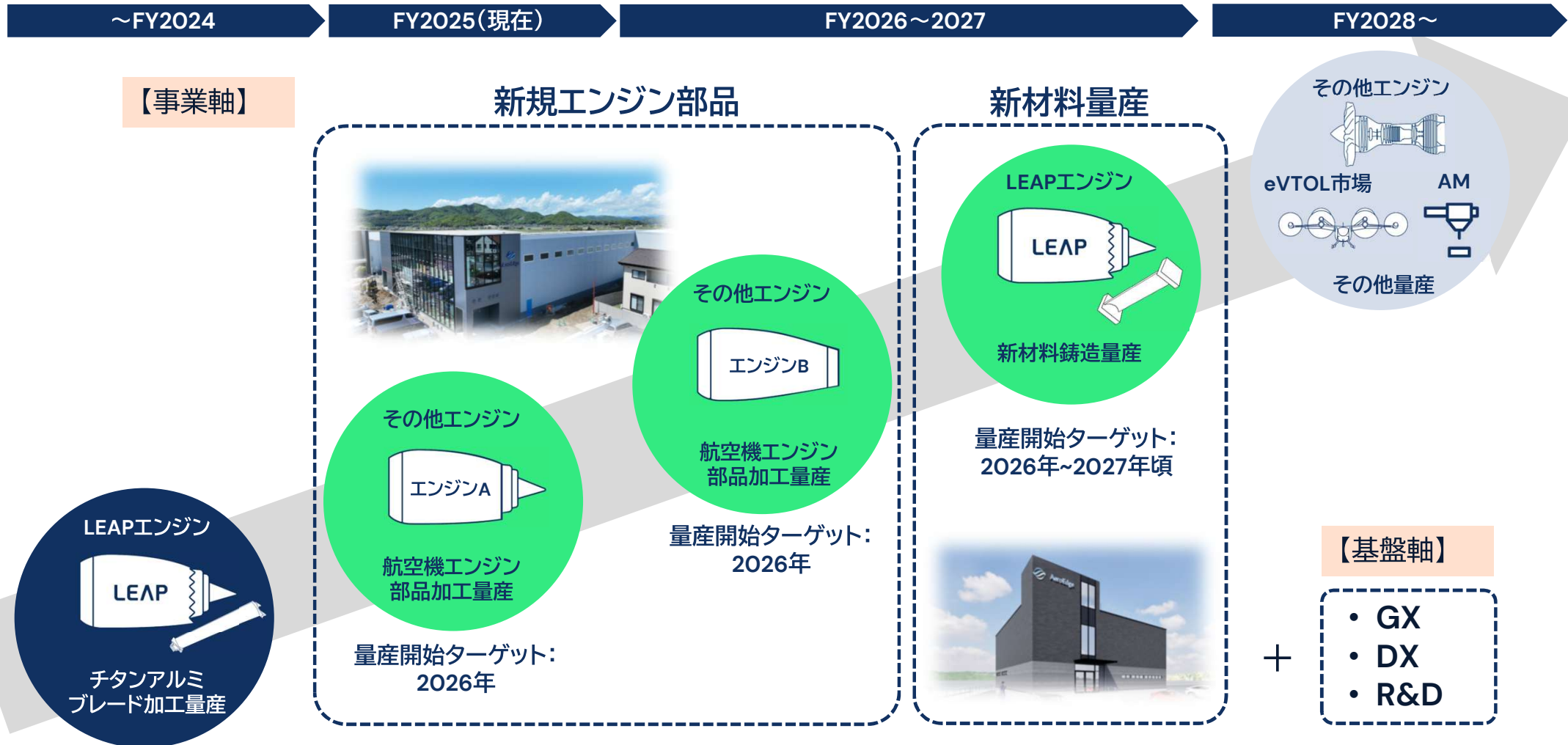
3. グローバルでの信用/与信力

- 国内外の取引先は主に大企業
- 企業としての信用力向上に寄与

グローバルニッチ戦略での事業拡大

当社のコアコンピタンスである加工技術並びにAM技術を活かし、航空市場及び新たな市場での『量産』ビジネス拡大を狙う。

収益貢献タイミング(見込)



1. 新規エンジン部品

新規エンジン部品

新材料量産

GX

DX

R&D

LEAP以外のエンジンかつサフラン以外の新たな海外大手企業と、エンジンA、エンジンB部品の量産案件を獲得。これらに対応するべく、総額36億円を投資し、本社工場敷地内にB棟を建設。

加工事業としてのポートフォリオ拡大



取引先	非公開 (LEAP / Safran以外)	非公開 (グローバル航空機関連メーカー)
契約期間	—	2026年～2036年
投資金額	約19億円(完了)	約17億円(完了)
補助金活用	設備投資額の 1/2～2/3程度	設備投資額の1/2程度
収益規模等	両案件の営業利益ターゲット:3～5億円程度 (27年6月期見込)	

< B棟工場 >



- 建屋および設備あわせた投資額は、約36億円(投資完了)
- エンジンA / BはいずれもLEAP以外の成長が見込めるエンジン
- 将来の増産を見据えた事業立上げ

2. 新材料量産(1/4)

新規エンジン部品

新材料量産

GX

DX

R&D

材料まで含めた一貫工程によるQCD+CNが高く評価され、LEAP向けチタンアルミブレードの材料内製化とシェアアップ契約を締結。既存工場への設備追加と併せて総額50億円の投資を決定し、足利市内に材料評価ラボ、鋳造工場を建設中。

材料まで手がける一貫工程の拡大



取引先	仏SAFRAN社	仏SAFRAN社
契約期間	2016年～2034年	2026年7月～2034年
投資金額	約24億円 (シェア拡大対応分)	約26億円 (ラボ・鋳造工場)
補助金活用	—	投資額の1/2程度
TiAlブレード 販売量	今期累計見込み: +31.9% 来期累計見込み: +45~55% ※前期(2025年6月期)比	

<鋳造工場>



- LEAP向けチタンアルミブレードの材料量産の投資額は約26億円
(材料評価ラボ、鋳造工場、鋳造炉等)
- LEAP加工事業のシェアアップに伴う追加設備の投資額は約24億円

2. 新材料量産(2/4)

新規エンジン部品

新材料量産

GX

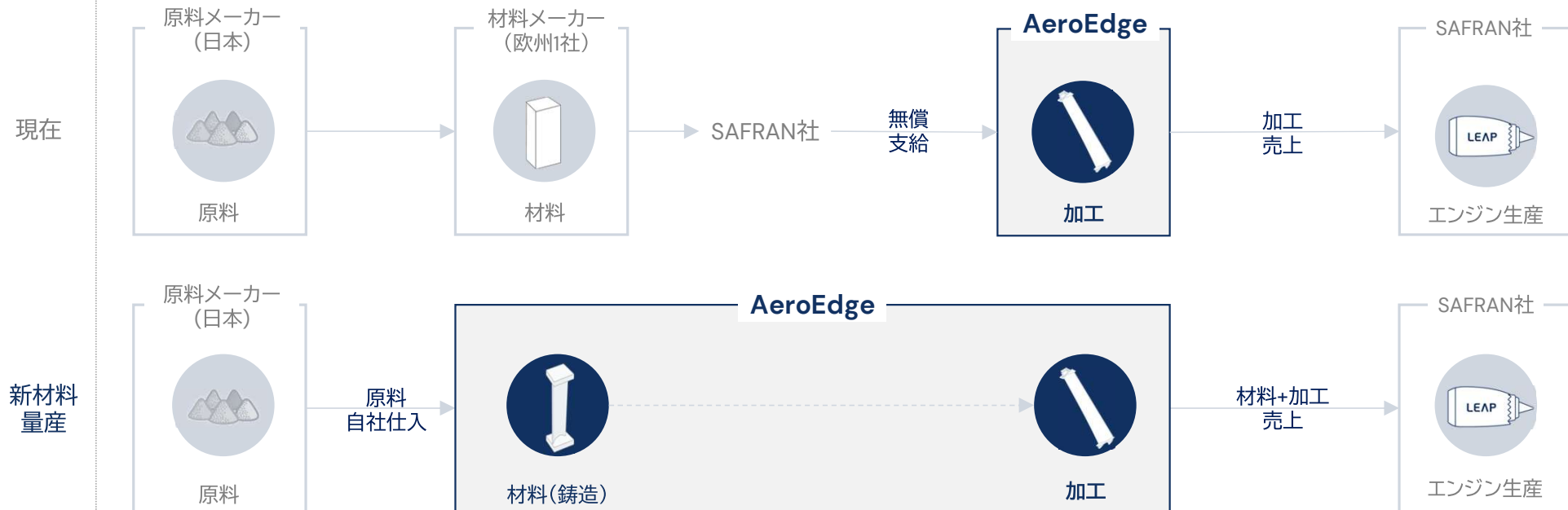
DX

R&D

既存のチタンアルミブレード加工における、材料評価データの蓄積、社内人財の活躍、世界情勢など全ての条件がマッチしたことでAeroEdgeが材料～加工の一貫生産を行う素地が整ったとともに、その付加価値が高く評価された。

LEAPチタンアルミブレードの新材料量産化

生産フロー



① 原料～完成品まで国内完結 → CO2排出量削減

② 材料供給と生産計画の安定化

③ 加工最適形状へ鋳造 → 加工原価削減

④ 加工+材料での売上拡大



本資料と発表は情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、その性質上、特定の個人や事業体に具体的に適用される個別の事情に対応するものではありません。また、本資料の作成または発行後に、関連する制度その他の適用の前提となる状況について、変動を生じる可能性もあります。個別の事案に適用するためには、当該時点で有効とされる内容により結論等を異にする可能性があることをご留意いただき、本資料の記載のみに依拠して意思決定・行動をされることなく、適用に関する具体的事案をもとに適切な専門家にご相談ください。